

広がった交友範囲

酒井 董美^{ただよし}

23日の「山陰の民話とわらべ歌ミニオンライン講座」午前の参加者、
 (上段) 左から右へ筆者、小西(奈良)原(千葉)坂本(東京)
 (中段) 左から 山内(東京)黒崎(島根)坪川(福井)山浦(東京)
 (下段) 左から 藤井(山口)池田(奈良)国枝(岐阜)の皆さん

写真説明に記したようにこれは昨日の「山陰の民話とわらべ歌ミニオンライン講座」の午前の部に参加なさった方のZOOMの写真である。ホストをしていたた奈良の小西雅子氏が、参加者の了解を得てコピーし、送ってくださったものである。

ごらんのように小生を含めて11名であるが、夜の部は少し増えた12名だった。午前の中にはなかった県名を挙げておくと神奈川、埼玉、栃木、鳥取の中には昼間にも参加なさった方も2名入っている。

前回のエッセイで登録都県名を挙げた中にうっかり奈良県の記入漏れがあったが、現状を掲載すると、東京、神奈川、千葉、静岡、栃木、埼玉、岐阜、福井、奈

良、鳥取、島根、山口、福岡の13都県になる。

地域の違う者同士が、こうして顔を眺めながら、質疑応答を即時で行えるのであるから、ZOOMには地域差はないと言える。文明の発達はここまで来たのかと感動する。

昨日の講座では、奥出雲町の手まり歌「こっから上の川上の」と、民話では「隠岐地方のネズミ浄土について」だった、午前と夜の二回聴講くださった東京の山浦敬子氏から、昨夜いただいたメールを紹介しよう。「今日はミニオンライン講座、2回も参加させて頂きありがとうございます。午前、午後ともメンバーが違くと、雰囲気も話題も変わるのだと、興味深く感じました。／特に、2回目に「ねずみ浄土」で、隠岐の島についての先生の思い出話(立命館大学での口承文芸学会)は、先生が島で教師をされながら、生徒達と民話採集にご苦労されたんだなと感じ入りながら聞かせて頂きました。

また、隠岐島の方々の特徴として挙げられた、「言葉がわかりやすい」「親切」「品がある」ということを聞き、今日の二つの隠岐島の昔話を通して、それがよく伝わってくると思いました。／隠岐島にぜひ行って、焼き飯を食べながらお話を聞きたくなりました。／だんだん、山陰地方が近くなってきました。次回も楽しみにしております。

即時性の証明に引用させていただいた。ZOOMの魅力は本当に尽きないのである。